マーク・パドモア（テノール）

Mark Padmore, tenor

　ロンドン生まれ。深い洞察に富んだ解釈、確かな様式の把握、流れるような自然な歌唱は世界中で賞賛されており、リサイタル、オペラ、現代音楽の各分野で優れた才能を発揮している。とりわけJ.S.バッハのオラトリオの演奏で定評があり、エヴァンゲリストとして、ピーター・セラーズ演出による《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》（ラトル指揮ベルリン・フィル）のベルリン、ザルツブルク、ニューヨーク、ロンドン・プロムスでの公演に出演した。

　コンサート活動にも積極的で、バイエルン放送響、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ニューヨーク・フィル、ロンドン響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、パリ管など、世界一流のオーケストラと共演。

オペラでは、ピーター・ブルック、ケイティ・ミッチェル、デボラ・ワーナーら現代屈指の演出家たちとコラボレーションを重ね、モーツァルトやブリテンほか、バロックや現代のオペラにも数多く出演している。

　世界各地でのリサイタルも絶賛を博し、シューベルトの三大歌曲集の全曲演奏をロンドン、パリ、東京、ウィーン、ニューヨークなどで行い、ベズイデンホウト、クーパー、ドレイク、フェルナー、ルイス、内田光子ら優れたピアニストたちと共演している。